

東京都退職校長会



会報

発行所 東京都退職校長会
発行者 多田 丈夫

〒113-0034 文京区湯島4-12-3 日公連鈴木ビル5F
電話 03-5814-5615

東京都退職校長会ホームページ <http://www15.ocn.ne.jp/~totaikou/>

○第64回の定期総会も無事終わった。今、二期目の会長職を任せられ身を引き締めている。期待を背負う新たな役員諸氏を前に、原点回帰を胸に刻んで、チーム力・組織力で業務の成果を上げようと訴え、「社長（会長）なんて偉くもなんともない。課長、部長、盲腸と同じだ。要するに命令系統を示す記号に過ぎない。切れ味の鋭い上司もいるがメンツにこだわってアイディアを葬りかねない盲腸並みもいる。現実の社会（教育）で起こりがちな弊害への目配りが必要だ」と。ホンダの創業者



課題山積、教育の弊害への目配りを
— 最年少棋士に内在する教育の原点 —
東京都退職校長会 会長 多田 丈夫

本田宗一郎氏の言葉を借りて心情を語った。聊か緊張した。いよいよ、今年のスローガン（安寧と幸せを求めて）の具体的な歩みが始まる。行く先に課題は山積している。

○本部主催の第二回教育フォーラム東京・2017が5月16日、「答申から本会の将来像を考える」をテーマに東京ガーデンパレスで開催された。重鎮の大橋俊郎氏の「私と東京都退職校長会」と題した基調講演から多くを学んだ後、パネルディスカッション形式で最大の課題である会則改正

への集中審議をした。各支部の実情を背負った8名のパネラーと一七名の会員の熱気が会場に溢れた。この日の参加者からも支部の悩みや苦しみが見え、未来に託する真剣な眼差しを感じとれた。ボールは歴史と伝統を持つ43支部に投げられた。「会員の総意に基づく新しい会則の実現」と「明日に期待する組織の再編」を期待したい。この可能性への挑戦で会員のモチベーションの高まることを信じている。

○今年も多くの支部を訪ね、会員の皆様にお会いする楽しみを

部総会への訪問も終わる。人との出会いややさやかな声援に心は実に軽やかである。

○私は5月10日の総会で最年少棋士、14歳の藤井聡太四段の16連勝を話題にした。当時「同じ人間とは思えない読みの深さと速さだ」と並み居るプロ棋士たちが絶賛していた。今や破竹の勢いで29連勝。30年ぶりの新記録とか。常に、自然体で凄みのある勝負も驚きだが、あの「謙虚さと礼儀正しい人柄」にこそ教育の原点が内在していると感じた。彼は勝利に「僥倖」という言葉を残した。

主な記事

- P1 巻頭言 会長挨拶
P2 第64回総会報告
P4 祝 ご長寿
P5 功労会員・本部役員
支部長・顧問・参与
P6 平成28年度決算書
P7 平成29年度事業計画
P8 平成29年度予算書

- P9 春の叙勲・
高齢者叙勲受章会員
湯島の動静
P10 第1回会員研修会
P12 「第2回教育フォーラム・
イン東京2017」の開催
P13 支部だより
P15 応募コーナー
P16 物故者、応募コーナー
編集後記

第六十四回総会報告

期日 平成29年5月10日
会場 東京ガーデンパレス

第六十四回定期総会が盛会のうちに終了することが出来ました。

一 開会のことば
司会 宇津木順一副会長

二 国歌斉唱
指揮 宮下 洋
(武蔵野・三鷹)

三 綱領唱和 黒田貞夫副会長
四 物故会員に黙祷

五 多田丈夫会長挨拶 (要旨)
東京都教育庁教育監 出張吉訓様をはじめ多数のご来賓の方々に出席頂きありがとうございます



ございました。また本日は叙勲の栄誉に輝いた先生方や米寿・喜寿を迎えられた先生方々をお迎えしております。

さて、三十年程前でしたか一台一〇〇万円もするコンピュータを見て驚き、その後学校にパソコンが配置され、埃をかぶっていると教育委員会からお叱りを受けた思い出があります。それがスマホのように手のひらでゲームを楽しみ、世界の情報が簡単にキャッチ出来るようになり、今やあらゆる分野で国境なき時代となっています。例えば一四〇文字のツイッターが世界を震撼させています。このような社会の進展を誰が予想したでしょうか。

明るいニュースもあります。最年少棋士一四歳の藤井聡太君、負け知らずの一六連勝で将棋界に旋風を巻き起こしています。他にサッカー界の久保建英君、卓球界の平野美宇さん、フィギュアスケート界の三原舞依さん等々十代の若者が台頭し、世界を舞台に堂々の活躍をする

ニュースが連続してあります。

一方、教育改革も急ピッチです。様々な教育課題に着目しつつ我々は東京都教育委員会と進めている人材バンクの事業、採用前実践的指導力養成講座の二つの委託事業を着実に前進させながら今後も組織をあげて国際都市東京の教育に寄与して行きたいと思っています。

また、都教委や関係諸団体とのウインウインの関係を堅持し、学校経営に日夜奮闘している校長先生方に心からエールを送って行きたいと思っています。

六 来賓祝辞 (要旨)

・東京都教育庁

教育監 出張 吉訓 様

本日お集まりの皆様には東京都の園長、校長先生としてこれ



まで東京都の教育の充実・発展のため一方ならぬご尽力を頂きましたことに深く敬意を表します。

さて昨年七月、小池百合子知事による都政がスタートいたしました。今年の一月、教育の根本方針となります『東京都教育施策大綱』を作成いたしました。その中の一つに、教師の力、学校力の強化を図るための専門家の積極的な活用、家庭・地域との連携や学校の組織力の強化が必要であることを示しております。

都教育委員会では様々な分野の優れた外部人材を活用し学習指導や部活動等の充実に活用するため人材バンク事業を実施しております。退職校長会には本事業の普及や学校への適切な人材の紹介等お力添えを頂いており厚くお礼申し上げます。昨年度は延べ四一〇〇名を学校に紹介することが出来、学校力の一助となっており、大綱の趣旨に合致した大変重要な事業であると認識しております。

また、『採用前実践的指導力養成講座』を実施しており、退職校長会の皆様には全面的なご

協力を頂いております。昨年度は延べ一〇〇〇名近い方にお力添えを頂き、きめ細かなご指導を行って頂いたことにより、受講生からも様々な前向きな感想が寄せられております。これも退職校長会の組織力の賜物であると心より感謝申し上げます。

・全国連合退職校長会

会長 戸張 敦雄 様

東京都退職校長会は多田丈夫会長を中心にしている。このように明るい雰囲気での総会が開催されますことを非常に嬉しく思います。

全国連合退職校長会は文部科学省や中央教育審議会から存在感を認められて参りました。この六月には「働き方改革」についての意見を述べてもらいたいというお誘いを頂戴する機会にも恵まれております。

今年三月に告示された学習指導要領、それがやがて実施されて参りますと学校の姿が相当大きく変わってくるだろうと思われまします。しかし、「学校」というところは学問の修得を通して人間形成を行う場である」という学校観はいささかも変わりはないであろうと思われまします。その

考えで今後も進めて行こうと思えます。

・都国公立幼稚園・こども園長会

会長 桶田 ゆかり様

入学式・入園式が終わって一カ月経ちました。連休も終わり子供たちは落ち着いて教育活動に取り組んでいるところです。

今年は少し忙しい時期になるのではないかと考えています。

三月に新幼稚園教育要領、学習指導要領が告示されたということがあるからです。

今回の改訂でキーワードと言われていることに「縦軸」というものがあります。義務教育の終わりまで、あとは十八歳の終了までに激しく移り変わる社会に生き抜いていく力を育てていくためにはどういう資質・能力があったらいいのか、を考えながら各校進めていきます。幼稚園は幼稚園なりにどのような基礎を育て次の小学校にしっかりとバトンを渡していかなくてはいいのかな、そのような見直しをしていかなければいけない年だと思えます。

◎来賓紹介

・東京都教育庁

教育監 出張 吉訓 様

・東京都教育庁人事企画担当

部長 鈴木 正一 様

・同 指導部企画推進担当

課長 榎並 隆博 様

・同 指導部義務教育指導課

課長 栗原 宏成 様

・東京都教職員研修センター企画部企画課

課長 児玉 大祐 様

・同 研修部授業力向上課

課長 堀田 直樹 様

・東京都教職員互助会経営企画部

部長 山田 利朗 様

・同 経営企画部互助事業課

課長 檜山 正 様

・全国連合退職校長会

会長 戸張 敦雄 様

・東京都退職公務員連盟

会長 坂 榮治 様

・日本教育公務員弘済会

東京支部

支部長代理 清水 政義 様

・都国公立幼稚園・こども園長会

会長 桶田 ゆかり 様

・東京都公立小学校長会

事務局長 田中 信夫 様

・東京都中学校長会

事務局長 高橋 忠雄 様

・東京都立高等学校長協会

事務局長 澤海 富保 様

・都民互助会代表取締役

社長 長末 眞二 様

七 新会員紹介 33名の入会者

八 長寿会員紹介・祝い品贈呈

米寿代表挨拶 渡邊貞之様

喜寿代表挨拶 岩谷榮子様

九 功労会員に感謝状等贈呈

代表挨拶 池谷 勇様

十 荣誉会員紹介

十一 議長選出

・森 俊一郎 江東支部長

・東條 康永 埼玉支部長

十二 議事

1 平成28年度 会務報告

2 平成28年度 決算報告

3 平成29年度 事業計画案

4 平成29年度 予算案

※全ての議事は承認

十三 議長解任

十四 報告事項

十五 会歌斉唱

指揮 宮下 洋

十六 閉会のことば (武蔵野・三鷹)

苗村崇倫副会長

◎総会終了後 会員研修会

◎その後、

会場を移しての懇親会(会費

七〇〇〇円)にはご来賓、会

員約一六〇名が参加した。

祝 ご長寿

(敬称略)

百七歳 1名 郷司 賢吾 (世田谷)
 百六歳 1名 岸田 勝則 (大田)
 百二歳 5名 大正4年4月2日～大正5年4月1日出生
 三浦 照枝 (大田) 朝倉 徹 (杉並) 守屋 章雄 (町田) 岡部邦三郎 (府中)
 武内 進 (北・西)
 百一歳 4名 大正5年4月2日～大正6年4月1日出生
 市来 康代 (目黒) 瀬間 一成 (神奈川) 望月 英子 (神奈川) 福島 唯義 (神奈川)
 百歳 2名 大正6年4月2日～大正7年4月1日出生
 木島 秀子 (武・三) 須山 道德 (神奈川)
 白寿 10名 大正7年4月2日～大正8年4月1日出生
 平井 明 (杉並) 平田 泰 (杉並) 舟生 清 (杉並) 橘 高信 (豊島)
 葛原 龍光 (葛飾) 松島 朝興 (武・三) 長田 定利 (北・中) 市村 聰明 (府中)
 下田 満穂 (北・西) 石原 彦文 (地方)

米寿 153名 昭和4年4月2日～昭和5年4月1日出生

高橋 敏 (千代・央)	栗岩 英雄 (新宿)	小尾 昭 (新宿)	重田 大和 (文京)	岡村 茂 (文京)
岩戸 榮 (台東)	三井 良雄 (墨田)	佐々木次雄 (江東)	岡田 定雄 (品川)	渡辺 幸次 (品川)
本多孝一郎 (目黒)	大久保正利 (目黒)	眞野目明男 (大田)	下釜 昭江 (大田)	太田 良夫 (世田谷)
浮谷 司朗 (世田谷)	鈴木 順一 (世田谷)	柳瀬 修 (世田谷)	渡邊 貞之 (世田谷)	松原 新一 (世田谷)
奥山 信悟 (世田谷)	有馬 正英 (世田谷)	嶋岡 道夫 (世田谷)	石川 久 (中野)	小林 照夫 (中野)
永田 正男 (杉並)	坂本 雄一 (杉並)	清水 伴徳 (杉並)	水上 卓也 (杉並)	立川 武男 (杉並)
中島敬太郎 (北)	須山 章平 (北)	古川 洋一 (北)	酒井 稔 (北)	森川哲次郎 (荒川)
後藤 榮 (荒川)	松原 淑子 (荒川)	浅見 一男 (板橋)	山崎 新一 (板橋)	小尾 辰昌 (板橋)
加島 直吉 (板橋)	坂本 尚敏 (板橋)	庄司 仁三 (板橋)	森田 嘉昭 (板橋)	井波 正明 (板橋)
和田 健一 (練馬)	木下 村夫 (練馬)	廣瀬 定弘 (練馬)	岡村 幸夫 (練馬)	中原 慎三 (練馬)
宮下 忠夫 (練馬)	山下 渡 (練馬)	涌井 澄夫 (足立)	薊 文雄 (足立)	伊佐 隆一 (葛飾)
酒井昭次郎 (葛飾)	小松崎晟良 (葛飾)	樋口 駿 (葛飾)	田中 皓 (江戸川)	岐津 俊二 (江戸川)
開沼 恒治 (八王子)	秀島 照次 (八王子)	飯島 久雄 (八王子)	安齊 和寿 (八王子)	内堀 忍 (八王子)
中島 忠雄 (八王子)	守屋 健 (八王子)	須田 忠治 (八王子)	山北 主夫 (八王子)	大野福三郎 (町田)
河合 信夫 (町田)	岡端 芳子 (町田)	平井 正人 (日南)	山上 壽子 (日南)	阿久津福栄 (日南)
橋詰 義昭 (日南)	府川 次男 (武・三)	田野崎茂樹 (北・北)	浅野 成稔 (北・北)	川野 克己 (北・北)
田中 邦男 (北・北)	濱 和廣 (北・北)	篠山 隆 (北・北)	永松 洋一 (北・北)	小池 竜夫 (北・北)
辺見 兵衛 (北・北)	三木 義明 (北・北)	佐伯 春雄 (北・北)	大野 耕 (北・北)	楠瀬 敏則 (北・北)
真弓 矢 (北・北)	佐久間和夫 (北・中)	岡山貴美子 (北・中)	飯田 勤 (北・中)	溝 力 (北・中)
岸 源三 (北・中)	亀山 昭三 (北・中)	松岡 忠信 (府中)	大澤 俊子 (調布)	瀧井 信彦 (調布)
小林 耕一 (調布)	平沼 剛三 (狛江)	宇賀 春郎 (狛江)	國生千恵子 (狛江)	芝田 時次 (北・西)
皆川 利一 (北・西)	青木 幸子 (北・西)	小宮 進 (北・西)	近藤 正晴 (北・西)	古屋 光男 (北・西)
長江 宏 (北・西)	小野崎 通 (北・西)	光島 章一 (西多摩)	中野 一夫 (西多摩)	福田 保 (西多摩)
福地 保 (西多摩)	佐野 和夫 (西多摩)	大河内五郎 (西多摩)	東 英學 (西多摩)	須崎 直人 (西多摩)
加藤 清二 (西多摩)	船越 信 (千葉南)	瀧井 正廉 (千葉南)	小林 彰治 (千葉中)	芝崎 茂夫 (千葉中)
野本 忠晴 (千葉中)	岸川 正登 (千葉中)	中村知恵子 (千葉西)	後藤 昌吉 (千葉西)	勝野 良臣 (千葉北)
鶴岡 忠克 (千葉北)	阿部 三男 (千葉北)	川上 次男 (千葉北)	箱田 浩 (千葉北)	坂谷 三雄 (千葉北)
山口 和治 (埼玉)	池田 瀨彌 (埼玉)	渡邊 喜盛 (埼玉)	佐藤 勝郎 (埼玉)	佐藤 守也 (埼玉)
木下 靖正 (埼玉)	清水 良雄 (神奈川)	中原 親義 (神奈川)	中村 秀雄 (神奈川)	菊地 家達 (神奈川)
荒木 三郎 (神奈川)	加藤 光一 (神奈川)	小林 武 (神奈川)	前原 俊男 (神奈川)	杉山 正昭 (神奈川)
新井 秀一 (神奈川)	古谷 一三 (地方)	徳永 陽一 (地方)		

喜寿 83名 昭和15年4月2日～昭和16年4月1日出生

岩谷 榮子 (千代・中)	建守 紀子 (文京)	永山 洋子 (文京)	佐々木 賢 (文京)	猪瀬 久子 (墨田)
湯浅 茂 (品川)	兒玉 潔夫 (品川)	加藤 一俊 (目黒)	荻野 郁子 (大田)	阪田 博之 (世田谷)
土屋 惇子 (世田谷)	丸山 延子 (世田谷)	荒井 正賢 (渋谷)	榎本 和男 (杉並)	小林 洋子 (杉並)
水谷 弘 (杉並)	久世 勇 (杉並)	加藤 裕美 (豊島)	酒巻美津枝 (北)	岡田 芳子 (荒川)
清水 健 (板橋)	橋本 肇 (板橋)	赤津 肇一 (板橋)	大澤 鷹彌 (板橋)	黒澤 紀夫 (足立)
石川 完治 (葛飾)	櫻井 紀男 (葛飾)	細木 茂 (葛飾)	横井 鮎子 (葛飾)	長島 迪夫 (江戸川)
山本満里子 (江戸川)	辻野 宗行 (八王子)	源原 重行 (八王子)	山下 省藏 (八王子)	多田 丈夫 (八王子)
川村 清 (八王子)	山下 法昭 (八王子)	加賀谷貞子 (町田)	中野 道代 (町田)	宇都宮勝彦 (町田)
若林 文子 (町田)	半田 勝昭 (町田)	長島 靖彦 (町田)	落合 節子 (町田)	小俣 光雄 (日南)
岩崎 正 (日南)	小野 好江 (日南)	嶋 幹夫 (武・三)	小野満禎子 (武・三)	清水 勇 (北・北)
伊藤 恒子 (北・中)	小林テル子 (北・中)	有田 禮二 (北・中)	村越 正則 (府中)	矢田部正照 (調布)
萩原 敏文 (北・西)	茂山 吉秀 (西多摩)	伊東 重信 (西多摩)	内埜 芳男 (西多摩)	中部 喜和 (西多摩)
沖山 瑞紀 (西多摩)	村野 久子 (西多摩)	加藤健次郎 (西多摩)	中澤 崇美 (千葉南)	牧野内正美 (千葉南)
阿部美和子 (千葉西)	中村 博子 (千葉西)	佐々木立雄 (千葉北)	豊嶋 任世 (千葉北)	清水 豊 (埼玉)
太田黒 亨 (埼玉)	喜村 齊 (埼玉)	鶴殿 輝夫 (埼玉)	笹岡 久子 (埼玉)	功刀 芳雄 (埼玉)
山口 要人 (神奈川)	布施 紀子 (神奈川)	吉川 正弘 (神奈川)	安尾 久子 (神奈川)	長田 正夫 (神奈川)
安藤 正明 (神奈川)	立中 幸江 (地方)	石塚 清美 (地方)		

本会へのご功績を讃え感謝状を贈ります

功労会員（平成28年度以降の退任役員等）14名（敬称略）

副会長	西川満智子（大田）	支部長
黒田 貞夫（埼玉）	井口 一衛（豊島）	丸木 一磨（渋谷）
安達 勉（狛江）	木口 三男（江戸川）	池谷 勇（北多摩西）
評議員	川村 清（八王子）	理事
山本 英夫（港）	萩原 敏文（北多摩西）	福利厚生部 岩崎 保（目黒）
高橋 毅（目黒）	加藤 清二（西多摩）	福利厚生部 市川 哲彦（西多摩）

平成29年度 本部役員

会 長	多田 丈夫（八王子）	総務部長	林 和明（世田谷）
副会長	中岡 啓子（足立）	会報部長	梅津 通郎（武蔵野・三鷹）
	福利厚生部担当	福利厚生部長	守屋 龍男（北多摩西）
	宇津木順一（西多摩）	生涯学習部長	齋藤 徳蔵（千葉西）
	総務部担当	企画調政部長	伊地 敦子（北多摩北）
	苗村 崇伶（江東）	事務局長	三辻 陽夫（日南）
	会報部担当	監 事	大南 英明（千葉西）
	小久保正己（埼玉）		今井 重夫（神奈川）
	会計部担当 会計部長兼任		藤井千恵子（埼玉）
	桑原 利夫（江東）		
	企画調整部担当		
	藤崎 武利（千葉南）		
	生涯学習部担当		

支部長

千代田・中央	岩谷 榮子	北	大崎美代子	調	布	渡邊 孝
港	野々山 毅	荒	川 戸叶 恒夫	粕	江	松崎 正勝
新	宿 廣澤 義夫	板	橋 小林 和子	北	多	重野 和夫
文	京 小林 博	練	馬 内匠 英夫	多	摩	宇津木順一
台	東 老川 秀夫	足	立 伊藤 誠一	西	島	村田 公充
墨	田 小菅 和子	葛	飾 佐藤 晴雄	大	宅	浅沼 洋
江	東 森 俊一郎	江	戸 川 奥村 信吾	三	葉	渡辺 弘
品	川 高橋 信夫	八	王 子 榛葉 邦男	千	葉	菅谷廉之助
目	黒 薩日内信一	町	田 沖倉 啓寿	千	葉	藤木 三五
大	田 天野 正忠	日	南 馬場 孝	千	葉	永嶋 達夫
世	田 谷 小林 由衛	武蔵野・三鷹	田 原 良敏	千	葉	清水 豊
洪	谷 五十嵐邦享	北 多 摩 北	阿久津州美男	埼	奈	石川 秀治
中	野 緒方 良子	北 多 摩 中	鎌田 敏雄	神		
杉	並 井口 茂	府	延藤 君雄			

顧 問

太田 秀（文 京）

片岡 敦子（北多摩北）

参 与

相田新太郎（練馬）

武藤 昇（板橋）

滝澤 利夫（埼玉）

田野倉訓郎（西多摩）

大木 英雄（千葉南）

黒田 貞夫（埼玉）

白石 裕一（武蔵野・三鷹）

安達 勉（狛江）

平成 28 年度 東京都退職校長会 一般会計決算書

1 収入総額 11,441,771 円 2 支出総額 11,375,882 円 3 差引残額 65,889 円

単位=円 △収入は予算より減、支出は予算より増

収 入 の 部					
款	項	目	28 年度予算額	28 年度決算額	増 減
年	度	会 費	7,907,000	7,549,200	△ 357,800
繰	越	金	84,947	84,947	0
雑	収	入	500,000	1,263,042	763,042
積	立	基 本 金	2,000,000	2,544,582	544,582
合	計		10,491,947	11,441,771	949,824
2,500 円× 3,007 名、1,300 円× 9 名計 3,016 名 前年度よりの繰越金 利子、祝金、広告掲載料等 特別会計積立基本金より					
支 出 の 部					
款	項	目	28 年度予算額	28 年度決算額	増 減
会	議	費	450,000	479,493	△ 29,493
	総	会 費	400,000	409,312	△ 9,312
	役	員 会 費	30,000	70,181	△ 40,181
	部	会 費	10,000	0	10,000
	各	種 委 員 会 費	10,000	0	10,000
事	業	費	4,085,000	4,162,350	△ 77,350
	会	員 名 簿 発 行 費	170,000	166,320	3,680
	会	報 発 行 費	1,300,000	1,388,428	△ 88,428
	生	涯 学 習 費	50,000	59,748	△ 9,748
	慶	弔 費	850,000	934,580	△ 84,580
	渉	外 費	30,000	19,714	10,286
	ク	ラ ブ 補 助 費	100,000	99,600	400
	教	育 支 援 費	80,000	50,000	30,000
	会	員 増 強 費	40,000	44,140	△ 4,140
	H	P 運 営 費	270,000	282,750	△ 12,750
	支	部 活 動 助 成 費	980,000	912,070	67,930
	支	部 活 動 祝 金	200,000	205,000	△ 5,000
	島	嶼 活 動 助 成	15,000	0	15,000
事	務	費	3,410,000	3,757,309	△ 347,309
	事	務 用 品 費	70,000	168,785	△ 98,785
	備	品 費	10,000	10,541	△ 541
	事	務 員 行 動 費	1,080,000	990,000	90,000
	事	務 所 費	1,850,000	1,868,867	△ 18,867
	印	刷 費	50,000	86,749	△ 36,749
	コ	ピ ー 機 費	280,000	477,792	△ 197,792
	通	信 費	70,000	154,575	△ 84,575
交	通	費	1,220,000	1,668,730	△ 448,730
全	連	退 分 担 金	1,268,000	1,244,000	24,000
運	営	資 金 積 立 金	10,000	10,000	0
会	員	名 簿 積 立 金	10,000	10,000	0
諸	雑	費	30,000	44,000	△ 14,000
雑	備	費	5,000	0	5,000
予	備	費	3,947	0	3,947
合	計		10,491,947	11,375,882	△ 883,935
総会に関する諸費(会議費、記念品費、発送費等) 監査会・都公立一覧・五団体懇・全連退懇・理事会茶代等 各部の会合・資料・印刷・通信費等 各種委員会資料印刷・通信費等 会員名簿作成・発送費・通信費等 会報 193～196 号印刷・発送費等 会員研修会会場費・講師謝金等 香料 他機関との交渉・連絡費・懇談会会場費等 クラブ事業の助成費等 研修会諸経費・研修会諸経費等 新会員入会に関する通信費等 H P 維持費等 支部助成・県支部助成・振替料等 支部総会・周年行事等の祝金等 支部長会交通費一部負担					
事務用品・消耗品等 事務機器等 本部事務員行動費、資料作成費・事務補助員行動費等 事務所借料・光熱費・電話料等 資料文書等印刷費・印刷機保守契約費用等 コピー機リース代等 事務局の通信連絡用諸費 役員会・部会・事務局等の交通実費等 全連退会費 周年記念事業積立 会員名簿発行積立 関プロ大会参加費等(群馬県) 諸雑費 予備費					

平成 28 年度 特別会計 決算書

1. 運営資金積立金 ③			
収 入		支 出	
運営資金積立金	1,725,809		
本年度積立金	10,000		
利息	14		
計	1,735,823	計	0
		次年度繰越金	1,735,823

2. 会員名簿積立金 ④			
収 入		支 出	
会員名簿積立金	1,037,507		
本年度積立金	10,000		
利息	10		
計	1,047,517	計	0
		次年度繰越金	1,047,517

3. 積立基本金 ②			
収 入		支 出	
前年度繰越金	29,460,135	一般会計へ	2,000,000
寄付金(都民互助会)	2,202,250	書籍代	44,582
利息	5,824	会報印刷費補助	300,000
		全連退会費補助	200,000
計	31,668,209	計	2,544,582
		次年度繰越金	29,123,627

平成29年4月12日

東京都退職校長会 会長 多田 丈夫

会計部長 小久保 正己

諸帳簿、証書等、関係資料と対照監査したところ、適正且つ正確に処理されていることを確認しました。

平成29年4月12日

監事・氏名・印

大角英明

今井重夫

藤井千恵

平成 29 年度 活動方針と具体的な事業計画

1. 活動方針

本年度は、本会の輝く未来を展望した実り多い業務が企画・実践される年と位置付ける。まずは、本部と支部の組織力を一層高め、入会促進を図りつつ、会員一人ひとりが豊かさの実感できる環境を整え、手ごたえのある具体的な実践を期待する。

本部は、新たにスローガン、「For the Well - Being」－安寧と幸せを求めて－を掲げ、本会の綱領が詠う「生き甲斐づくりに貢献する」と共に、国際都市東京に生きる会員一人ひとりの心の拠り所となる第2の居場所づくりの運営と発展に尽力する。さらに、新しい執行部体制に期待される諸事業を円滑かつ効果的に運営していく。

そのために、次の3つの具体的方針を掲げる。

- (1) 本部と支部とが一体となって、健康で文化的な諸活動の促進を図り、生き生きとした存在感ある退職校長会の確立を目指す。
- (2) 業務改善・基金検討委員会の「答申」が求める「会員の総意に基づく新しい会則の実現」と「明日に期待する組織の再編」に努力する。
- (3) 本会の誇る会員の英知と経験を生かし、2つの教育委託事業の推進力を高め、都及び関係諸団体との一層の連携強化を図る。

2. スローガン「For the Well-Being」－安寧と幸せを求めて－

3. 各部・委員会の目標・事業計画

〈総務部〉

1. 本会の綱領や活動方針を踏まえ、各部、各組織間の連絡、調整等にあたり、円滑な会務運営に努める。
2. 総会、評議員会、支部長会等の企画運営に当たる。また、教育フォーラムの企画運営に関する連絡・調整を担当する。
3. 全連退関係の調査の把握を行うと共に、関ブロ東京大会の企画・運営・調整に努める。
4. 43支部の情報収集に努め、本部の諸課題に関する連絡・調整に努める。
5. 会員増強に関する業務を担当し、会員名簿の発行及び退職予定者、退職者で未加入者の情報を的確に提供し、入会促進に努める。
6. 業務改善・基金検討委員会の「答申」から会則改正について、包括的な把握に努め、作業部会を支援する。

〈会計部〉

1. 平成26年度に決めた「予算編成の基本原則」を遵守するよう、各部の予算執行に際し、必要に応じて指導助言をし、適正な執行を促す。
2. 43支部との連携を随時図り、支部の会員確保や会費徴収の状況を的確に調査研究及び把握すること、本部の取り組みを支援する。
3. 事務局長と共に、各部の支出状況を随時把握し、予算の適切な支出を促すこと。
4. 執行状況の中間報告を正副会長会に提示すること。

〈会報部〉

1. 平成27年度に示した「会報誌発行の基本原則」に沿って、年4回の会報を発行する。発行予定日は、7月、10月、1月、4月とする。
2. 本会の活動状況と的確な支部会員の情報を把握し、「分かりやすい、より魅力のある会報誌」を目指す。
3. 会報等の編集及び校正作業を行い、編集全般の責任を負う。発行にあたっては、正副会長会及び事務局長と緊密な連携を図る。
4. 各都道府県及び支部からの会報・情報誌の管理・保管に努めると共に、有用な教育情報を本会の会議に提供する。

〈福利厚生部〉

1. 叙勲、米寿等の長寿者に関する支部情報の的確な把握に努め、併せて情報の収集、整理、提供に資すると共に、慶祝する任を負う。
2. 別に定める「慶弔等に関する内規」に沿って、会員の慶弔に関する事務を処理する。
3. 毎年10月に実施される〈東京都教職員物故者追悼式〉での「追悼のこぼし」の遺族代表候補者を7月上旬までに選定し、〈東京都教職員互助会〉に推挙する任務を負う。
4. 各支部との連携を密に、長寿会員、功労会員、栄誉会員の正確な把握に努め、総会時の名簿に掲載する責任を負う。
5. 新年会及び総会後に実施される懇親会の企画、推進を負う。
6. 年金、高齢者医療、介護等の社会情勢からの情報提供に努める。

〈生涯学習部〉

1. 各支部の生涯学習活動に関する情報収集に努め、年二回の魅力ある会員研修会を企画、運営する。
2. 年二回のクラブ委員長会を運営し、活動状況、予算配分、クラブ会員の把握に努め、必要に応じて指導、助言をする。また、クラブ活動の広報とクラブ会員の増員に努める。
3. 居住する地域で活躍する会員の情報を集め、会報誌やHPへの掲載に尽力する。
4. 福利厚生部と連携して、2年に一度の役員歓送迎旅行の企画・実施・運営の任を負う。

〈企画調整部〉

1. 総会、評議員会、支部長会等の諸会議の総合司会を担当する。
2. 各部で実施する事業の具体的な調整をすると共に、実施内容の把握に努める。
3. 各部が提案する資料の把握に努め、諸会合が円滑にいくよう調整をする。
4. 東京都教育委員会幹部との懇談会の企画・運営・調整を行う。
5. 五団体との教育懇談会の企画立案・運営を負う。
6. 会長の意を体し、都教委との委託事業が円滑に推進するよう、関係の委員会への連絡・調整及び必要に応じて指導する。

平成 29 年度 東京都退職校長会 予算書 一般会計

1 収入総額 10,628,889 円 2 支出総額 10,628,889 円 3 差引残額 0 円

単位＝円 △ 28 年度より減

収 入 の 部		29 年度予算額	28 年度予算額	増 減	摘 要
款	項 目				
年 度 会 費		7,763,000	7,907,000	△ 144,000	2,500 円× 3,100 名・1,300 円× 10 名 (計 3,110 名)
繰 越 金		65,889	84,947	△ 19,058	前年度よりの繰越金
雑 収 入		500,000	500,000	0	利子、祝金、広告掲載料等
積 立 基 本 金		2,300,000	2,000,000	300,000	特別会計積立基本金より
合 計		10,628,889	10,491,947	136,942	

支 出 の 部		29 年度予算額	28 年度予算額	増 減	摘 要
款	項 目				
会 議 費		520,000	450,000	70,000	
	総 会 費	450,000	400,000	50,000	総会に関する諸費(会場費、記念品費、発送費等)
	役 員 会 費	50,000	30,000	20,000	都公立一覽・監査会・五団体懇・全連退懇・理事会茶代等
	部 会 費	10,000	10,000	0	各部の会合・資料・印刷・通信費
	各種委員会費	10,000	10,000	0	教育支援活動委員会・役員選考委員会等資料作成費等
事 業 費		3,785,000	4,085,000	△ 300,000	
	会員名簿発行費	30,000	170,000	△ 140,000	会員名簿作成、発送費等
	会 報 発 行 費	1,200,000	1,300,000	△ 100,000	会報 197 ～ 200 号印刷・発送費等
	生涯学習費	60,000	50,000	10,000	会員研修会会場費・講師謝金等
	慶 弔 費	850,000	850,000	0	香料
	渉 外 費	30,000	30,000	0	他機関との交渉・連絡費・懇談会会場費等
	クラブ補助費	100,000	100,000	0	クラブ事業の助成費
	教育支援費	50,000	80,000	△ 30,000	研修会諸経費・現職教員対象研修会諸経費等
	会員増強費	30,000	40,000	△ 10,000	新会員入会に関する通信費等
	H P 運 営 費	270,000	270,000	0	H P 維持費等
	支部活動助成費	950,000	980,000	△ 30,000	支部助成、県支部助成、振替料等
	支部活動祝金	200,000	200,000	0	支部総会・周年行事等の祝金
	島嶼活動助成	15,000	15,000	0	支部長会交通費一部負担
事 務 費		3,480,000	3,410,000	70,000	
	事務用品費	90,000	70,000	20,000	事務用品、消耗品等
	備 品 費	10,000	10,000	0	事務機器等
	事務員行動費	1,080,000	1,080,000	0	本部事務員行動費、事務補助員行動費
	事務所借料	1,500,000	1,850,000	△ 350,000	事務所借料、会議室使用料、光熱費電話代等
	印 刷 費	90,000	50,000	40,000	資料文書等印刷費、印刷機保守契約
	コ ピ ー 機 費	620,000	280,000	340,000	コピー機リース代等
	通 信 費	90,000	70,000	20,000	事務局の通信連絡用諸費
交 通 費		1,400,000	1,220,000	180,000	役員会・部会・事務局等の交通実費等
全連退分担金		1,244,000	1,268,000	△ 24,000	全連退会費
運営資金積立金		30,000	10,000	20,000	周年事業積立
会員名簿積立金		20,000	10,000	10,000	会員名簿発行積立
諸 費		60,000	30,000	30,000	全連退関プロ大会(群馬県)参加費等
雑 費		24,000	5,000	19,000	諸雑費
予 備 費		65,889	3,947	61,942	予備費
合 計		10,628,889	10,491,947	136,942	

平成 29 年度 予算書 特別会計

1 運営資金積立金		収 入		支 出	
繰越金	1,735,823				
一般会計より繰入	30,000				
利息	100				
計	1,765,923			計	0
			次年度繰越		1,765,923

2 会員名簿積立金		収 入		支 出	
繰越金	1,047,517				
一般会計より繰入	20,000				
利息	100				
計	1,067,617			計	0
			次年度繰越		1,067,617

3 積立基本金		収 入		支 出	
繰越金	29,123,627			一般会計へ	2,300,000
都民互助会寄付金	1,800,000				
利息	4,000			計	2,300,000
計	30,927,627			次年度繰越	28,627,627

平成 29 年 4 月 1 日

東京都退職校長会 会長 多田 丈夫

春の叙勲受章会員

(敬称略)

瑞宝小綬章 1名 大野 耕 (北多摩北)
立田 六助 (千葉北) 永瀬 純三 (府 中)
瑞宝双光章 9名 國生千恵子 (狛 江)
鈴木 順一 (世田谷) 瀧井 正廉 (千葉南)
柳瀬 修 (世田谷) 岩城 俊一 (千葉北)
板倉 東男 (葛 飾) 中山 正彦 (神奈川)

高齢者叙勲受章会員

(敬称略)

瑞宝小綬章 1名 高山 初介 (西多摩)
中村 賢治 (山 梨) 山本武太郎 (千葉西)
瑞宝双光章 8名 内野 仁之 (北多摩北)
長谷川平四郎 (杉 並) 中村 秀雄 (神奈川)
阿久津福栄 (日 南) 廣瀬 昭江 (茨 城)
武田 恵子 (日 南)

湯島の動静

5月

1 総務部会
2 人材バンク委員会
8 正副会長会
9 福利厚生部会
10 総務部会
11 第64回定期総会
12 第一回会員研修会
13 業務改善委員会
14 《短歌クラブ》
15 生涯学習部会
16 教育フォーラム
17 会報部会
18 人材バンク委員会
19 正副会長会
22 企画委員会①
24 企画委員会②
30 企画委員会③

6月

1 全連退・理事会
2 全連退・定期総会

7月

5 正副会長会②
6 福利厚生部会
7 《短歌クラブ》
8 生涯学習部会
9 企画委員会②
10 総務部会
11 企画委員会①
12 総務部会
13 企画委員会③
14 企画委員会④
15 企画委員会⑤
16 企画委員会⑥
17 企画委員会⑦
18 企画委員会⑧
19 企画委員会⑨
20 企画委員会⑩
21 企画委員会⑪
22 企画委員会⑫
23 企画委員会⑬
24 企画委員会⑭

3 総務部会
4 福利厚生部会
5 正副会長会③
6 会報部会
7 《役員歓送迎旅行》
8 総務部会
9 企画委員会③
10 企画委員会④
11 企画委員会⑤
12 企画委員会⑥
13 企画委員会⑦
14 企画委員会⑧
15 企画委員会⑨
16 企画委員会⑩
17 企画委員会⑪
18 企画委員会⑫
19 企画委員会⑬
20 企画委員会⑭
21 企画委員会⑮
22 企画委員会⑯
23 企画委員会⑰
24 企画委員会⑱

新登場

No.1

アフラックは
がん保険・医療保険
契約件数 No.1
平成28年版「インシュアランス生命保険統計」

●契約年齢●
0歳～
満85歳
まで

がんをきむ
病気や
ケガの
備えに

ちゃんと応える
医療保険
NEVER

心配な
「がん」の
備えに

新 生きるための
がん保険 Days

■募集代理店(アフラックは代理店制度を採用しております)

◎商品およびサービスの詳細は「契約概要」等をご覧ください。

三泉トラスト保険サービス株式会社

0120-357-212

FAX 03-3233-6754

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-11-1

(引受保険会社)

「生きる」を創る。

Aflac

アフラック

東京第一法人営業部

〒163-0456 東京都新宿区西新宿2-1-1

新宿三井ビル19階

Tel.03-3344-1446 Fax.03-3348-0565

AF広告課-2017-0005-1705004 1月16日

平成二十九年 第一回会員研修会

生涯学習部

○ 期日

平成二十九年五月十日(水)

○ 会場

東京ガーデンパレス

○ 演題

生き生き人生

元氣の出る集い

「健康で長生きしよう」

めざそう！健康長寿

○

講演者

医学博士

渡辺 仁先生

医療法人社団 渡辺会

大場診療所 副院長

中野区医師会 副会長

中野区教育委員会教育委員

※ 司会

東京都退職校長会

生涯学習部副部長

田中 弘志

一 開会のことば

生涯学習部部長 齊藤徳蔵

二 会長挨拶 多田丈夫

生涯学習部の発案で医学博士の渡辺 仁先生をお迎えして、
 本会の今年のスローガン「安寧と幸せを求めて」に相応しい研修会を企画していただきました。
 これまでの生涯学習部の周到な準備に感謝いたします。

また、本日の出席者の7割以上の方が80歳以上の会員の方で、
 時節にあった極めて関心の高い演題が用意されております。
 ご静聴よろしくお願いいたします。

三 講演

講演は説明資料をスクリーンに大きく投影しながら分かりやすく進んでいきました。

(1) 日本人の平均寿命

(平成27年度)

男性は八十、七五歳で世界第三位

女性は八六、九九歳で

4年連続世界第一位

平均余命(平均27年度)

(あと何年生きられるか)

七五歳の男性 十二年

七五歳の女性 十五年

(2) この五十年で科学(医学)

はどれほど進化したかについて興味深い具体例が示され、その中で『健康寿命』の話があった。
 『健康寿命』とは、日常的に介護を必要としないで生活ができる生存期間のこと。

男性 七十一歳

女性 七五歳

が示され、男女共に世界第一位ということでした。

(平成26年度)

なお、百歳以上の高齢者数は平成二十六年に六万人を突破した。五十年前の昭和四十二年では、僅か二百五十人でした。こ



れらのことは実にすばらしいことです。

(3) 健康寿命をのばそう

厚生労働省は、『健康寿命をのばそう』をスローガンに、国民全体が元気に健康で楽しく毎日が送れることを目標に

「運動」、「食生活」、「禁煙」の3分野を呼びかけています。

例として

運動では、苦しくならない程度の早歩き。

食生活では、いつもの食事に、

一皿の野菜を摂ること。

禁煙 たばこは健康を損なう。

(4) 老化とは、老化による変化
 老化は、身体の全ての臓器・組織を構成する全ての細胞に起き、二十代から少しずつ進み、四十代から老化の症状を認めるようになる。

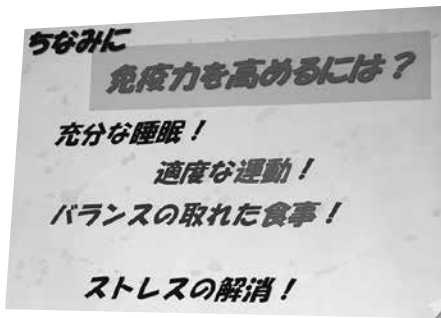
老化の特徴は細胞数の減少により臓器が萎縮し、そのため生理的な機能が低下する。

① 予備力の低下

② 防衛反応の低下

③ 細胞数の減少による変化

① については、高齢者は日常生活



投影資料

- 活での体力は保持しているが、走ったり階段を上がったりするための予備の力が低下する。
- ②については、危機に面したときに避ける動作が衰えてくる。病原菌に対しての防御反応（免疫反応）が衰えてくる。
- 年齢とともに免疫機構が低下、その結果病気に罹りやすくなる。
- ③については、骨格筋と臓器の細胞数の減少、また脳細胞の減少もある。
- (5) 免疫力を高めるには、
- ・ 十分な睡眠
 - ・ 適度な運動
 - ・ バランスのとれた食事
 - ・ ストレスの解消

- (6) 六十五歳以上の方で要介護になる原因は、
- ① 脳血管疾患 22 %
- 血圧の薬はきちんと飲むこと。ここは講師の渡辺 仁先生が特に強調していたところです。
- ② 認知症 15 %
- ③ 衰弱 14 %
- ④ 転倒・骨折 10 %
- (7) 病気「高齢者」と栄養について
- ① 一般的には蛋白質、ビタミン、ミネラル、必須脂肪酸、食物繊維が不足がち。
- ② 栄養のアンバランス
- 糖質が中心の食事が多い。
- ③ 味覚の低下
- 塩分の摂取量が多くなる。
- ④ 咀嚼・嚥下が困難
- 堅い物や繊維の多い物を避ける。(肉や野菜が不足がち)
- (8) 高齢者は蛋白質が不足
- 身体は、約60%が水分、そして約20%が蛋白質で、筋肉、皮膚、臓器そしてホルモンや免疫体など体の大部分は蛋白質で出来ている。蛋白質が不足すると筋肉の量が減る。蛋白質・エネルギー

低栄養状態は高齢者（特に、介護を必要とする高齢者）に多くみられる。

(9) 『高齢者こそ肉を』

『見過ごされる

高齢者の栄養失調』

というテレビ番組があった。

なお、厚生労働省は健康づくりの指針の中で、

「健康寿命の延伸を最優先とし、肉などの蛋白質を高齢者がしっかりと食べるよう指導に乗り出した」とある。ここでも肉を食べることに

仁先生も強調していました。

(10) ビタミンについて

ビタミンは体内で作れないので食事によって外から摂取しなければなら

い場合は、野菜ジュースなどで補う工夫も必要です。

(11) 水について

忘れてはならないのが水。

水は必須の物質であり、身体

の主要成分で栄養素を運搬する

体液に水は含まれています。

五大栄養素に水も加えて、六

大栄養素と表現します。

病気(高齢者)と栄養

栄養的問題
一般的には 蛋白質・ビタミン・ミネラル(Ca, Feなど)
必須脂肪酸・食物繊維 などが不足しがちとなります。
栄養のアンバランス
摂取する食品や献立が単一的になりがち
脂質が中心の食事が多い(取りやすい、食べやすい?)
味覚の低下
塩分の摂取量が多くなりがち
あつたものを好む(脂質などが不足しがち)
咀嚼・嚥下が困難
堅い物や繊維の多い物を避ける(肉・野菜などが不足しがち)

投影資料

水分不足による合併症として、血栓症、心不全、急性腎不全、膀胱炎など。

(12) 講演の結びで、『運動と栄養』を強調し、特にウォーキングを勧めていました。

四 謝辞 副会長 黒田 貞夫

〈アンケートの結果より〉

六十二名の方より貴重なご意見をいただき、九割以上の方々から大変良かったとの評価をいただいた。また、とても面白く分かり易かった。もっとお話を聞きたかったというご意見が多かった。

「第2回教育フォーラム・イン東京2017」の開催

去る5月16日（火）、東京ガーデン・パレスで、第2回教育フォーラムが行われた。今回の内容は昨年9月に会長の諮問事項で立ち上げられた「業務改善・基金検討委員会」の答申を受け、基調講演並びにパネルディスカッションが計画された。43各支部長推薦で参加者を募り、100名余の参加の開催となった。

総合同会の桑原副会長の開会挨拶に始まり、「私と東京都退職校長会」と題して基調講演を検討委員会委員・評議員代表の大橋俊郎氏から約20分間の話があった。90歳を超えた氏の本会へのかかわりと業績、岐路にさしかかっている現況と充実・発展を願う熱い思いが語られ、会場からも惜しめない拍手が送られた。

次にパネルディスカッション。多田会長のコーディネートで、パネラーには検討委員会委員長・宇津木順一副会長、委員会委員として桐谷澄男千葉南部支部長、今井重夫監事（神奈川県）、大橋俊郎評議員代表、支部長代

表は、東條康永埼玉県支部長、

寺沢史日南支部長、小林博文京

支部長、田原良敏武蔵野・三鷹

支部長の8名の諸氏が登壇した。

冒頭、本日のパネラーは委員会

報告が多岐にわたっているため、

会則の改正に焦点化して進めたい

という意向と時間の制約から

進行上の約束をパネラーに同意

を得てスタートした。各パネ

ラーの簡略な自己紹介後、委員

会報告として宇津木委員長が配

布された答申の抜粋資料（H28・

11・7）をもとに諮問事項4点

のうち①会則を含む業務の改善

について説明をした。

〈説明内容の主なポイント〉

・会則の制定・一部改正から相

当の年数：組織・運営の現状

と実態に即した内容に改正。

・会員数減、高齢化から組織・

運営のスリム化が課題：状況

を踏まえた会則の検討が必要。

・社会環境や会員の状況等の変

化に対応：会則は基本的・原

則的な内容に改正。

・細部のきまり等：状況にに応じ

て変更可能な細則、規定等で

補充すること。

※詳細は、会報第190・191・192・

194・195・196号に経過報告と抜

粋紹介がある。（参照）

これを受けて、各パネラーか

ら感想・意見等が述べられた。

〈紙幅の都合で主な点のみ〉

・会報での的確な情報提供、問

題点が明確に：居住地・勤務

地どちらかに所属（問題提起

としてよい）、その際、会費

の徴収方法が課題になる、準

会員制度も理解できる制度。

・18回全出席。活発な話し合い、

激論：会員減少に伴う諸々の

課題、会員の選択制導入一理

あり。地域だと入会しない。

B会員はよそ者感覚。会員増

に「選択制度」はベター。

・会員減は収入減。組織上のム

ダを無くす必要。会則が今の

実態に合わないのは事実。

・会員減は会費の収入減。事業

は縮小しても存続の価値あり。

現状に合った素晴らしい会則

の改正を求める。（以下略）

その後、今回のフォーラムは

身内同士の集まりであり、答申

事項の共通理解の場という位置

付けから、会場の意見も何う形

で進行。千葉西部の藤木三五支

部長、北多摩西部の池谷勇氏、

八王子の渡辺和則支部長、そして女性の立場からと緒方良子中野支部長、大崎美代子北支部長を指名し、それぞれの立場から、感想・意見・留意点等々を寄せていただいた。

予定の2時間があつという間に経過し、終わりにコーディネーター多田会長がパネラー並びに参加者への出席のお礼とこの委員会立ち上げの経緯を述べた。

4つの諮問は「とんでもないことを提案」「身の程を考えろ」の思いだが、会長就任時「今やらねば」「なんとかせねば」の決意の表れであること、「支部あつての本部、会員あつての組織」運営を肝に銘じ、64年の本会の歩みの中で、時代の変化に対応していないところを補う意味であることを理解願いたいということ、そして、このフォーラムを契機に、今後は作業部会に答申内容の論点整理を託すること、その際、決して結論を急がず、焦らず、全会員の声に耳を傾けながら、時にアンケート等も実施しながら本会の存続・発展に益する改善となるよう努めることを約束し終了した。

（副会長 桑原利夫）

支部だより

板橋の活動

板橋支部長 小林 和子

平成二十九年度の板橋支部の活動が始まりました。年々会員減少で寂しい限りですが、先輩の築いてこられた支部の活動を繋げていくべく努力していきたいと思います。

板橋支部発足以来続いている活動に、教育懇話会と総合作品展があります。

①教育委員会との懇話会

平成二十八年度は、教育長より、「教育の板橋」を創り上げること、「アクティブな教育活動」に変えていくことについての教育ビジョンを熱く語っていただきました。

教師は一人ひとりの子どもとことん大切にする、校園長は一人ひとりの教師とことん大切に、さらに教育委員会は一人ひとりの校園長をとことん

大切にする、という教育長の言葉は、大変印象的でした。

②小中学校校長会との懇話会

一年交代で懇話会を開きます。板橋区では、平成二十八年度までに全小中学校に電子黒板が設置され、効果的な活用に向けての研修が進められています。はじめは抵抗感があったそうですが、慣れるに従い、ITの機能を使いこなしているそうです。

また、授業におけるマナー・ルールの徹底、教科に応じたノート指導など、具体的な指導を共通して進めている姿に感心しました。

顔なじみであったり、新採当時の恩師であったりして、同じ道を歩む者としての親しみを感じます。退職後は退職校長会への入会のお誘いを忘れません。

③総合作品展

先輩O先生の発案で平成九年から始まった「作品展」は、途

中から「総合作品展」に変更したものの、今も続いており、平成二十八年度は第二十回を迎えました。

会員減少に伴い、出品数も少なくなりましたが、日頃趣味で続けていること、身近な写真、研究など範囲を広げました。更に尺八、ギターの演奏、折紙やエコ工作の実演など発表の場として取り入れ、五十八点の作品が集まりました。

第二十回ということで板橋区長も応援出品してくださり盛り上がりしました。大きい作品は会員が車で搬入するなどきめ細かな対応で準備しました。

開催には苦労もありますが、何よりも久しぶりに皆と会って懐かしい話ができるのを楽しみにしています。

会員の相互交流の場として、また生涯学習発表の場として有意義な活動を今後も続けていきたいと思います。

ふれあいを深める糧として

調布支部長 渡邊 孝

調布支部は、平成二年北多摩南支部から独立し27年になる。83名の会員でスタートしたが、現在は26名の小規模な支部である。

・会報「ゆうゆう」について
支部発足当初から発行している会報は今年度で70号になる。第1号は発足4年目の平成六年で「ふれあいを深める糧に」との初代遠藤薫支部長の巻頭言で発行されている。B4二つ折りの手作り、現在もその形式を踏襲している。

会報の名の由来は、退職後の生活は「悠々自適」であろうから、その語源の様々な字の中から選び、総会で決めた記録に残っている。先輩諸氏の真摯な取り組みに頭の下がる想いである。

内容は、行事の報告や新会員

挨拶、長寿者の言葉、その時々
の教育問題への論評、会員の近
況等、編集委員の企画で多くの
会員の声が掲載されている。

・主たる行事について

本支部の行事は、総会・役員
会・研修会・見学会・新年会で
ある。

研修会は、講師を招聘しての
会も行うが、平成16年から始め
た現職校長会との懇談会は、会
員にとって市の教育の現況を学
ぶ重要な研修となっている。毎
年小学校、中学校と交互に会合
を設定している。

第一回からの話題を振り返っ
てみると、その年々の教育課題
が取り上げられている。・各学
校に主幹を置く・長期休業中の
教員の勤務・学校評議員制度等
様々である。昨年は、オリンピッ
ク、パラリンピックへの取り組
みについて話題となり、各学校
が推進校として様々な取り組み
を進めるとのことであった。

会場として様々な競技が行わ
れる調布市の教育面での対応を
期待したい。

見学会は、平成11年から行っ
ている。市内や近辺には見学場
所が多くあり、普段何気なく訪
問している所を講師を招いて専
門的な見方で学ぼうと計画した。

神代植物公園・深大寺・武者
小路実篤公園・下布田遺跡・郷
土博物館・調布市西部の公共施
設（都調布市福祉園・警視庁警
察学校・青少年交流館）また、
狛江市や日野市等近隣の市も訪
問している。

平成28年度は調布駅に近い布
多天神社を訪問した。普段何気
なく参拝している天神社だが、
宮司さんの説明を受けて、由緒
ある古天神が身近にあることを
改めて知った。

これらの研修会や見学会の状
況は会報で報告する。「ゆうゆ
う」がふれあいを更に深める糧
となることを願っている。

島ととも

三宅支部長 浅沼 洋

三宅支部のある三宅島は、伊
豆諸島のほぼ中央にあり、東京
都心から南に約一八〇キロの位
置にあります。

平成十二年（二〇〇〇年）に
噴火し、四年五カ月に及ぶ島外
全島避難という稀有の経験をし
ました。

この噴火に際しましては東京
都をはじめ全国のたくさんの方
々よりご支援をいただきました
こと、改めて感謝申し上げます。
す。ありがとうございました。

平成十七年の帰島以降も山頂
からはガスの放出があり、『三
宅村役場からお知らせします。
ただいま〇〇地区にレベル〇の
注意報（警報）が発令されまし
た。』という村内放送が流され
ましたが、ここ数年はガスの放
出が激減し、居住地区ではガス
の臭いを感じることはなく、島
全体も落ち着いています。

三宅島での支部活動は、毎年
春に開催される年一回の支部総
会と本部からの「会報」配布、
小学校・中学校への訪問等を中
心に行っています。

会員数は、現在九名で島に五
つあるそれぞれの地区に居住し
ています。総会には小学校・中
学校の現職校長にも参加しても
らい、会員の近況報告や各地区
の情報提供をはじめ、小学校、
中学校の様子なども共有してい
ます。

平成十二年の噴火前は三校ず
つあった小学校・中学校も、児
童・生徒数の減少もあり、現在
は保育園、小学校、中学校、都
立高校が各一校ずつになってい
ます。各園・校とも小規模少人
数ですが、活発な教育活動が行
われ、小学校・中学校では一人
一台ずつの機器を揃えて、I C
T教育にも積極的に取り組む、
授業も参観する機会もあります。
また、合同の運動会、音楽発
表会、作品展や学芸会、文化祭

等に案内をもらって、会員それぞれが出かけるようにしています。会員の減少や島外での活動等に課題はありますが、会員同士の緊密な連携と学校との交流を中心に活動を更に続けていく

つもりです。

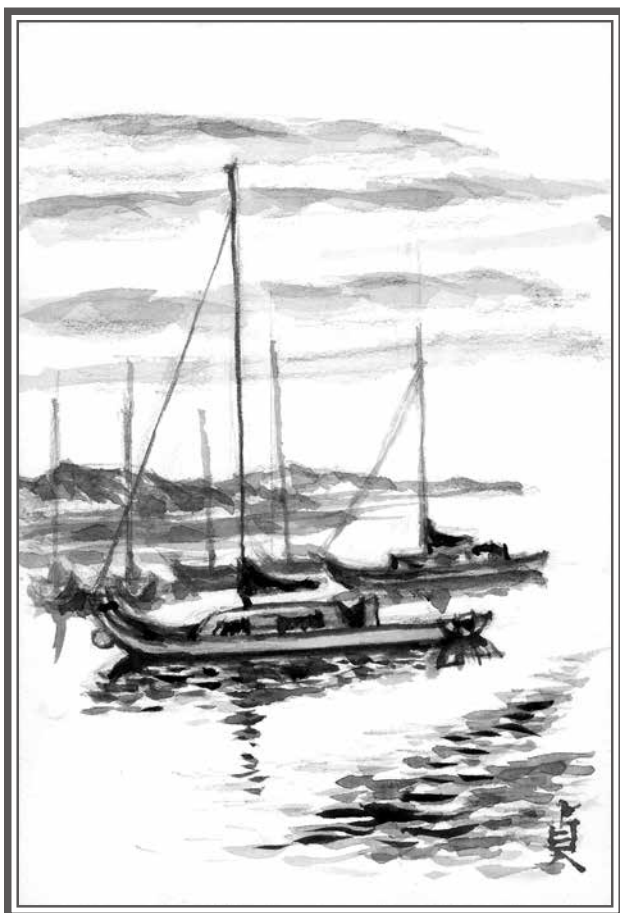
今、三宅島は帰島から一〇年以上が経ち、青い海と緑の大地、季節ごとの色彩豊かな花、鳥のさえずりを楽しむことができます。

応募コーナー

水墨画

題名「朝の風」

世田谷支部 渡邊貞之



第196号の会報紙で「書画・写真」等の応募をお願いしたところ、早速、水墨画（葉書）をご応募いただきました。ありがとうございます。（会報部）

東京都退職校長会会員の皆様へ

昭和51年4月に東京都退職校長会の会員の皆様の福利厚生の一環として団体契約を頂戴しております。会員ご本人様はもとより、ご家族、ご親戚の方々もご利用いただけます。

事前相談

どんなに些細と思われることでも
お気軽に

ご葬儀

寝台自動車、火葬場
式場、供花・枕花の
お手配

ご法事、 葬儀後の お手続き

家族葬から音楽葬など、あらゆるご葬儀を承っております。
年中無休・24時間体制、どのようなことでもご相談ください。

フリーダイヤル ☎ 0120-849544 をご利用ください。



経済産業大臣許可（五）第3066号
株式会社

東京都民互助会

東京都民互助会

検索

<http://www.tomin-gojo.co.jp>

〒167-0042 東京都杉並区西荻北5-1-8 TEL.03-3396-7231 FAX.03-3395-8874

(平成29年6月20日届出現在)

物故者															謹んでご逝去を悼み ご冥福をお祈り申し上げます						
氏名	年月日	支部名	校種	年齢	名簿頁	氏名	年月日	支部名	校種	年齢	名簿頁	氏名	年月日	支部名	校種	年齢	名簿頁				
増田 佐吉	27.1.1	静岡	高	83	143	齋藤 正夫	29.3.24	大田	小	90	16	新井 久	29.3.25	中野	小	89	25				
宇井 治郎	29.3.28	北多摩中	中	87	82	福田 三郎	29.3.26	埼玉	小	99	127	高橋 貞夫	29.3.31	世田谷	小	84	19				
南雲 啓一	29.4.5	大田	小	92	15	小林 雅昭	29.4.7	豊島	小	89	31	吉田 崇雄	29.4.8	千葉北	高	69	121				
柴屋 晴夫	29.4.9	板橋	中	79	37	古川 純市	29.4.13	目黒	小	89	11	張江 幸男	29.4.21	千葉南	中	86	136				
潮木 孝吉	29.4.23	世田谷	小	95	21	鈴木 清茂	29.4.30	茨城	小	99	142	赤岩 一	29.5.11	足立	小	91	47				
田村 斐	29.5.15	板橋	中	85	37	三澤 秀雄	29.5.18	町田	小	96	63	芳賀 利正	29.5.22	町田	中	93	64				
丸林 俊一	29.6.11	北多摩西	小	81	96	紅床 哲	29.6.26	練馬	小	90	39	沢辺 壽一	29.3.18	北多摩中	小	91	86				
金澤 十郎	29.3.15	大田	小	96	14	金子 泰三	29.3.11	北多摩西	高	89	93	時松 茂親	29.3.7	埼玉	中	91	123				
中山清太郎	29.3.3	大田	小	89	12	渡辺弘一郎	29.3.3	埼玉	高	101	125	佐久間清典	29.2.15	調布	小	88	90				
河上一雄	29.2.13	武蔵野三鷹	高	76	73	松久保泰介	29.1.26	杉並	中	84	29	鈴木洋一郎	29.1.22	千葉西	小	83	115				
小貫 隼男	29.1.19	神奈川	小	91	134	中島 治	28.12.23	神奈川	中	87	132	下田 迪雄	28.11.5	練馬	小	92	41				
牧瀬 克英	28.6.21	鹿児島	小	73	144	増田 佐吉	27.1.1	静岡	高	83	143	宇井 治郎	29.3.28	北多摩中	中	87	82				

応募コーナー

短歌・俳句

この子らの心晴れる日 待ちわびる
話すれども黙して語らず

子どもらに何も出来ず 悔い残る
この苦しみを毎日背負いて

この子らの定規真直に
伸ばしてやれる日 いつか来たらん

青春が七十路昔に回帰せり
蜜から兄より音信ありて

ふさふさと紅の実のイイギリは
群れなす鳥の祭の宴

初蟬や少年大志の日は遙か
ニ一二蟬の初鳴きは青春の調べ。心ときめく老いの春は東北の地

府中支部 和知光儀

作品募集

短歌・俳句・川柳（ひとり三首
まで）・コント（百字程度）等を
葉書でお寄せください。

「書画・写真」等の作品も募集
いたします。作品の写真または
データをお送りください。原則、
返却しません。

掲載時の大きさ等は割付状況に
より異なることをご了承ください。

送り先 〒113-0034

東京都文京区湯島4-12-3

日公連ビル5F

東京都退職校長会 会報部

編集後記

本号の巻頭言『課題山積、教育の弊害への目配りを』をぜひとも熟読、玩味を！ それにしても凄いの。『藤井聡太四段』

第六十四回総会報告も、ごゆつくりお読みください。支部だよりは、板橋・調布・三宅島の三支部からいただきました。三宅島からは…帰島から十年以上が経ち、青い海と緑の大地、季節ごとの色彩豊かな花…鳥のさえずりを楽しむことができました。

第一回会員研修会（生涯学習部）生き生き人生 元気の出る集い 渡辺仁医学博士の「健康で長生きしよう」めざそう！健康長寿。今の私たちに必読、そして実行の数々。健康寿命をのばそう。あと何年生きられるか。「第2回教育フォーラム・イン東京2017」の開催もありました。ではまた次号で。会報部一同、本年度も頑張ります。

（八重樫正男）